AGRI WORK POINT
アグリワークポイント

茶

翌年一番茶の母葉となる三番茶芽は充分に伸育してますか？

農業経営支援課
山本 尚充

《土壌改良と土づくり》

施肥効果を高めるためにも大切な作業です。堆肥や土壌改良材の投入、敷草の施用などで土づくりを行いましょう。

管内の土壌分析結果を見ると、pH値が3.0～3.5という値が目立ちます。本来、茶の好適pH値は4.0～5.0です。土壌改良材や堆肥の施用によって、この値を好適pHに近づけることができます。pH値を1.0上げる（例：pH3.5→pH4.5）だけで肥料吸収率が10％上がるというデータもあります。そのため、土壌改良はとても重要な作業となります。

pHを1上げるのに必要な苦土石灰量(kg/10a)

pH（H_2O）	砂　土	砂壌土	壌　土	埴壌土	埴土
4.9以下	60	120	200	260	340
5.0～5.4	40	80	120	160	200
5.5～5.9	20	50	60	80	100
6.0～6.4	10	20	30	40	50
6.5以上	0	0	0	0	0

※持続的農業を推進する「静岡県土壌肥料ハンドブック」より抜粋

《秋肥の施用》

秋肥は来春一番茶の良質多収を図るうえで重要な元肥です。肥料が分解吸収される（無機化する）ためにはある程度の日数を要します。根の機能が最も活発となるのは10～11月なので、肥効のピークが10月上旬になるように逆算して施すのが理想です。また、北部や山間地などでは、秋肥を早め（9月初旬頃）に施します。秋肥を遅くすると凍害の発生率が高まるという研究結果があります。低温になりやすい立地条件の茶園では、秋肥を早めにしましょう。

《病害虫防除》

この時期の病害虫の被害は、一番茶に大きく影響します。チャノキイロアザミウマは成葉に被害を与えますので防除が必要です。薬剤散布は葉層が厚くなっていますので丁寧に散布してください。また、チャノホコリダニの発生も注意が必要です。

《秋冬番茶と秋整枝》

秋整枝時期は、一般的には平均気温が18～19℃になる10月上中旬です。秋整枝の目的は、摘採面を均一にならし、来年一番茶に木茎や古葉が混入しないように品質維持を図るための作業です。来年の一番茶の為にも、9月中に秋冬番茶を摘採する場合は、浅めに収穫し、気温が下がってきた頃、改めて秋整枝を実施するようにしましょう。（再萌芽防止）